



「妊産婦さん1人ひとりのケアをしっかりと行いたい」と日下部長

特定医療法人沖縄徳洲会は旧湘南鎌倉総合病院(神奈川県)の別館跡地に「湘南鎌倉パースククリニック」を新たに開設する。2016年5月にオープン予定。同院お産センターのうち正常分娩を扱う機能を同クリニックに移管し、これまで以上に妊婦さんがリラックスした状態で、お産した状態で、お産に臨める施設を目指す。

同クリニック院長に就任予定の日下剛・湘南鎌倉病院産婦人科部長に開設の狙いや取り組み、展望を聞いた。

——湘南鎌倉パースククリニックを開設する狙いは？

日下 湘南鎌倉病院では井上裕美^{ひろみ}・副院長兼産婦人科部長を中心に、妊産婦さんの要望を取り入れる形で、「フリースタイル分娩の導入」や「根拠のない医療介入(陣痛促進剤の投与や会陰切開など)の廃止」などに、1990年代から全国に先駆けて取り組んできました。その後、2010年に当院が新築移転して以降は、合併症のある妊産婦さんや、高齢出産、早産などハイリスク分娩に対応する機会も増えてきました。

ハイリスクの妊産婦さんは、これまでどおり湘南鎌倉病院で受け入れる一方、医療介入の必要がないローリスク分娩を専門的に行う施設として、近年急速にさまざまなことが解明されてきたオキシトシン(ホルモンの一種)の働きなどに着目し、従来以上にスムーズなお産を目指す「湘南鎌倉パースククリニック」を開設することになりました。

また、当院では超急性期病院に特化した病院を目指して診療機能の再編・強化を進めており、急性期医療とは性質や時間軸の異なる機能の移転を行っているところです。パースククリニック新設はその一環でもあります。

もちろん、パースククリニックは湘南鎌倉病院と緊密に連携をとりながら、妊娠期間中に妊婦さんや胎児に異常があった場合、迅速に同院が妊産婦さんを引き継ぎ、母子の安全最優先のケアを行う方針です。

——「オキシトシンの働きに着目したお産」とは？

日下 オキシトシンは出産時に陣痛を促進したり、産後には母乳の分泌を促したりする作用があることが知られています。近年、オキシトシン研究の進展により、作用はこれだけでなく、人間の精神状態や感情にも影響を及ぼすことが解明されてきました。オキシトシンは、リラックスすることで、より多く分泌され、たくさん分泌されることによって、さらにリラックスした状態でお産に臨むことができるのです。

逆に、分泌を阻害するような不安や緊張、ストレスを感じると、陣痛も抑制されてしまいます。オキシトシンが妊産婦さんの精神面にも影響を与えることは、以前から現場で経験的に感じていたことですが、研究が進んだことで科学的根拠のもとづき確信をもって取り組みを進めることができます。

陣痛が、なかなか来ないからといって安易に陣痛促進剤を投与したりするような短絡的な関与の仕方ではなく、妊娠初期から準備を開始し、リラックスできる状態や心構えをつくっていくのが適切な方法です。その実践の場になるよう環境を整え、

妊産婦さん一人ひとりに合わせて取り組んでいくのがパースククリニックの役割です。当院お産センターの基本的な方針を継承しながら、さらに一歩進んだお産を目指します。

——パースククリニックのハード面や今後のスケジュールを教えてください。

日下 地上4階・地下1階建てで、敷地面積は約1,700㎡、延床面積は約3,500㎡となる予定です。19室の病室はすべて個室とします。リラックスできる空間を提供できるようレイアウトや採光など工夫したいと思っています。また、出産前後に訪れる家族と一緒に宿泊できるスペースもとりたと思っています。

14年11月に着工し、16年4月に竣工、5月の開院予定です。開院時期と妊娠期間(40週)から逆算すると、15年9月頃以降の妊婦健診に来院いただいた妊婦さんから、パースククリニックでお産を行うことができます。今後、妊産婦さんに知っていただきたいことなどをまとめたプログラムを作成し、湘南鎌倉病院で先行して妊産婦さんに対応していきます。

妊産婦さん1人ひとりの産前からパースククリニックでお産を行うこと産後までのケアをしっかりと行い、地域に貢献していきたいです。



2016年5月開院予定の湘南鎌倉パースククリニック(イメージ図)